

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	西日本電信電話株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	大阪府大阪市中央区馬場町3番15号
工場等の名称	NTT金山ビル
工場等の所在地	名古屋市中区金山1-11-28
業種	情報通信業
業務部門における 建築物の主たる用途	その他
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	西日本地域における地域電気通信業務及びこれに附帯する業務、目標達成業務、活用業務
計画期間	平成31年4月1日 ～ 令和4年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和3年7月30日 ～ 令和3年10月28日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） NTT上前津ビル(名古屋市中区大須四丁目9番60号)
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	csr-bs@west.ntt.co.jp		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

NTT西日本グループ地球環境憲章

基本方針

1. 法規制の遵守と社会的責任の遂行

●環境保全に関する法規制を遵守し、国際的視野に立った企業責任を遂行します。

2. 環境負荷の低減

●温室効果ガス排出の低減と省エネルギー、紙などの省資源、廃棄物削減に行動計画目標を設定し、継続的改善に努めます。

3. 環境マネジメントシステムの確立と維持

●各事業所は環境マネジメントシステムの構築により自主的な環境保護に取り組み、環境汚染の未然防止と環境リスク低減を推進します。

4. 環境技術の普及

●ICTサービス等の研究開発成果の積極的な社会への普及を通じて、環境負荷低減に貢献します。

5. 地域社会支援等による貢献

●地域住民、行政等と連携した、日常的な環境保護活動への支援に努めます。

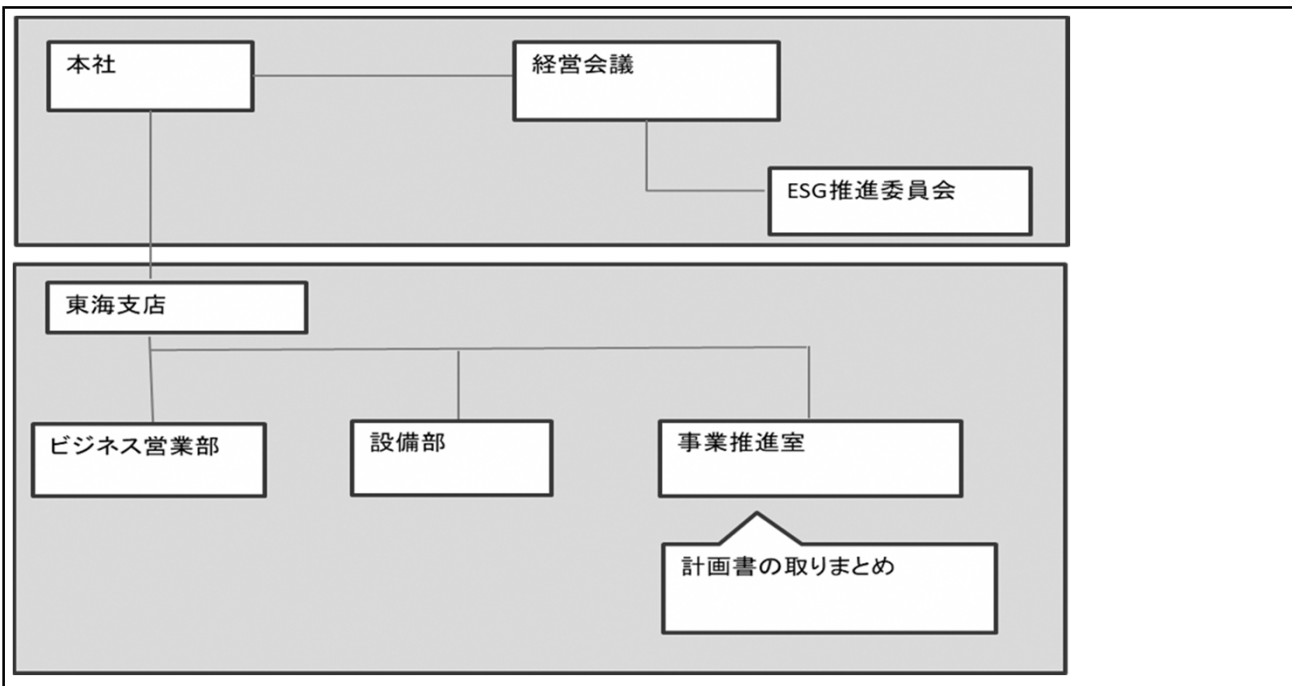
6. 環境情報の公開

●環境関連情報の公開により、社内外とのコミュニケーションを図ります。

7. 生物多様性の保全

●生物多様性と事業との関わりを把握し、生物多様性を将来世代に引き継ぐために取り組みを推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 2 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,498	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1,498	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	平成 30 年度		令和 3 年度		令和 1 年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
温室効果ガス総排出量	1,528	t-CO ₂	1,505	t-CO ₂	1,466	t-CO ₂	1,498	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			1.5	%	4.0	%	2.0	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	平成 30 年度		令和 3 年度		令和 1 年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

昨年度と同程度の温室効果ガス排出量であった。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進 (空調負荷低減)	・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・適正な室温管理 ポスターを掲示し、夏季28度、冬季19度を徹底して管理。 ・各組織において、業務スケジュールを勘案し		クールビズ・ウォームビズを通年化施策として実施
省エネルギー・省資源の推進 (照明)	・適正な照度を保ち、不要な照明を消す。 ・昼休みにはフロア内の不要な照明を消灯。 ・エレベーターホール等、通路の電球間引き。 ・季節の節目を感じさせる行事日等をイベントライ	イベントライトダウン(年17回)	イベントライトダウンの実施(17回)
省エネルギー・省資源の推進 (その他)	・エレベーターの台数制御 ・ポット・コーヒーマーカー等の使用を必要最低限とし、未使用時はコンセントを抜き完全な電源OFFを徹底する。		エレベーターの台数制御
自動車利用における取り組み	・車両ごとの燃費管理 ・エコドライブの推進 ・低公害自動車の導入		燃費基準達成車・低排出ガス車の使用
廃棄物の排出抑制等	・両面コピーによる紙使用量の削減 ・事務用品、事務用機器のリユース ・オフィスから出る古紙、ダンボールのリサイクル		・両面コピー・2UP印刷による事務用紙の削減 ・古紙・ダンボールのリサイクル
グリーン購入・調達推進	グリーン調達ガイドラインを定め、環境への影響を考慮した製品の調達を推進している		環境に配慮したエコ商品の購入
環境教育	全社員を対象に、WEBでの環境教育を実施		全社員WEB研修の実施

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 2 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 2 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

「イベント・ライトダウン」を年間で17日実施した。
